

臼杵・別府地獄めぐり

みなさま、ご無沙汰しております。新型コロナウイルス感染症の拡大は、予断を許さない状況で、医療従事者のみなさまには、心より感謝申し上げます。

趣味の旅は、2年前のエジプト以来、妄想の旅を続けていました。そんな時、東京の百貨店の外商さんから4月「臼杵、別府地獄めぐり」ツアーのお誘いを受け、今さら、地元の旅と思ったのですが、県内の感染者数が少ないこと、現地参加、解散が可能ということで気分転換に姉を誘って参加しました。

東京参加のかたは、大分空港到着後、宇佐神宮で旅の安全と疫病退散を祈願されました。宇佐神宮は、全国4万を超える八幡社の総本宮で創建725年です。八幡造りという朱色の本殿が美しく、国宝に指定されています。

私と姉は、中津市の筑紫亭の昼食会場で合流です。自宅から徒歩圏内にある筑紫亭へ、歩き慣れた道を久しぶりの旅に期待を膨らませながら向かいました。気の早い姉はすでに到着。数寄屋造りの趣きある主屋の2階で歴史ある調度品、柱の刀傷、苔むす庭を観ながら皆さんの到着を待ちました。

筑紫亭は大正3年に建築され国の有形文化財指定を受けています。魯山人や著名人も訪れた格式ある料亭です。中津城の外堀を渡った先にあり、地元の人からも愛されています。さらに、名物女将の存在です。女将は「食は命」「食が精神の魂を育てる」と食育を次世代に伝える活動をされています。食育は福沢諭吉先生の教えの延長線上にあるのだと思います。県内でも、小学校で漁師、プロの板前を招請し魚の捌き方や調理法を教える特別授業があります。恥ずかしいのですが、私はできないので、スーパーの鮮魚店頼みです笑。筑紫亭の昼食のおしながきは、添加物を使用しない地元で採れた筍、山菜、豊後水道の天然鯛、ハモシャブ、デザートは佐賀関の山羊ミルクと耶馬溪のヨーグルト、そして巻蒸です。中津発祥の巻蒸（けんちん）は江戸時代、お殿様の薬膳として考案された蒸し菓子です。それを、庶民の栄養不良を治すため、何か無いかと思案した蘭学医が庶民に作らせたそうです。現在でも、中津のお節には巻蒸が入っています。寒天生地に小豆、白豆、キクラゲが入り、ほんのり甘いお菓子です。

食後、東九州自動車道を通り、真っ青の瀬戸内海を眺め臼杵の石仏群へ向かいました。臼杵は、味噌、醤油、地酒などの醸造の町です。町の中心に臼杵城（亀城）があります。この城はキリシタン大名として有名な大友宗麟の居城で石畳にアルファベット様の文字が刻まれています。周辺は桜が咲き誇り市民の憩いの場です。まだ、



八重桜を見ることができました。車で20分ほどの所に臼杵石仏群（磨崖仏）があります。61体の大日如来像の首が落とされたのは、キリシタンの大友宗麟によるものでしたが、平成7年に国宝指定を受けるにあたり、落とされた顔が胴体に載せられました。石仏は平安時代後期から鎌倉時代に彫られ、4群に分かれています。表情豊かな御仏の姿は、見るものに安らぎを与えてくれます。緑深い里には鶯、野鳥の声に山藤が美しく、穏やかな時間が流れます。山肌に彫られた大日如来像にウツトリしました。写真から伝わるかなあ。慶應の看護学生の頃、同級生とおにぎりを持って訪れた、当時を思い出しました。観光バスもなく、山道を1時間以上歩いた記憶が蘇りました。今では、無理だなあ…夕日に照らされた芝桜も素敵でした。



臼杵石仏群（磨崖仏）の再会に満足し、夕食会場の山田屋本店に向かいます。西麻布の支店はミシュラン三つ星です。臼杵本店の河豚刺しは、身が分厚く、噛みごたえが抜群です。白子は店オリジナルで写真撮影はしないように言われたのが残念。ねっとりとしたフォアグラのような白子にカボスを絞り、河豚刺しに載せて頂きます。爽やかなお味に驚きです。また、器や調度品にも凝られています。アクリル板越しに姉と乾杯してコースを完食しました。



お腹も満足して、今回の旅のお目当て、インターコンチネンタルホテルへ向かいます。一昨年、別府に初めてラグジュアリーリゾートホテルが完成し、行ってみたいと思っていました。エントランスは木目調で一步入ると、眼下に広がる自然に、湯けむり、別府湾に息を呑むほどです。開放的な客室も日常の生活を忘れさせます。モダンで日本ならではのデザインを取り入れた館内はラグジュアリー気分になります。ホテルの露天風呂にゆっくり入り、姉と爆睡でした。翌朝は、ホテルの朝食後、お買い物、ホテルのエレメンツで地元の食材を使ったフレンチの昼食を堪能して大満足でした。リゾートホテルに別れを告げ、向かったのは地獄です。



ガイドの「ようこそ地獄へ」で笑いが起きました。別府温泉は日本一の湧出量。歴史は古く奈良時代の「豊後風土記」に血の池地獄、鉄輪温泉などの記録があるそうです。千年以上の昔より、噴気、熱泥、熱湯が噴出し近寄ることもできない土地と残されています。現在では、天国です。私達は、国指定名勝の海地獄からスタートしました。コバルトブルーの地獄は南の海を想像させます。1200年前に鶴見岳が噴火し、摂氏98度ありますので、中に浸かろうと思う人はいないです。鳥居の赤と新緑のコントラストが美しいです。同じエリアにある鬼石坊主地獄は灰色の熱泥が坊主頭を彷彿させるようにボコボコと一定のリズムを刻み飛び出し、この様から名前が



つけられています。バスで数分、風土記にある日本最古の天然地獄、血の池地獄に移動しました。煮えたぎる粘土は噴気まで赤色です。名前の由来通りの光景が広がります。皆さん驚かないで下さいね。産出される赤い粘土は皮膚病に効果があることから、'血の池軟骨'が作られています。別府市指定天然記念物の間欠泉「竜巻地獄」も圧巻です。20分間隔で熱湯と噴気を出します。その勢いは激しく、観光客はワーと驚いていました。間欠泉で、休止時間が短いことでは、世界でも珍しく注目を浴びているそうです。

さすが、日本一を誇る別府温泉は多様な景色、楽しみ方があると思います。普段なら、観光客で賑わう観光地も閑散として残念でした。中津から合流した私達は、ここで皆さんとお別れしました。1泊2日のラグジュアリーな旅は、妄想の旅を忘れさせてくれました。しかし、何か忘れ物をしたようで、居心地の良さが離れがたい自分が、そこにいることに気づきました。

世界の新型コロナウイルス終息を願うばかりです。先日、郷土で食べられるガン汁を頂きました。もずく蟹をすり潰し何回も越して作るすまし汁です。生臭も無く蟹みその濃厚さがめちゃくちゃ美味しかったです。安心な旅ができるようになりましたら、中津、別府温泉にお越し下さい。お待ちしております。

みなさま、くれぐれも体調に留意してお過ごし下さいませ。お会いできる日が早く来ますことを願っております。



渡邊郁美



